

新宮山彦ぐるーぶ第1932回

JAC「大峰奥駈道山行」一行と行仙宿で交流懇親会開催

実施日：平成29年5月21日(日)～23日(火)

参加者：川島 功、山上皓一郎、前田 正、生熊敏男・千満子、

(以上22～23日)。梶野照雄(22日帰り)。6名。

日本山岳会：L：征矢三樹、勝山康雄、清登緑郎、大久保勉、

小林義亮、大畑博子、橋本久子、高橋満男、

中坪 皓、前田英昭。 10名。

日本山岳会会報「山」2月号に山行委員会(委員長：清登緑郎)

の大峰南奥駈道の山行計画が掲載され参加者の募集記事が載った。

我々新宮山彦ぐるーぶが、道を拓き小屋を建てた南奥駈道の山行を再び日本山岳会が企画されたことに、少なからず喜びと期待を覚えた。

当初の予定は15人の限定募集だったが10人にとどまった、

北は北海道、南は徳島と広範囲からの参加である。早速山行リーダーの征矢さんに電話を入れ、お手伝いする事が有ればと申し入れ、21日の持経宿と22日の行仙宿に夕食と朝食を届けることの約束をした。

しかしいつの間にか此のことを川島代表が知り、87歳の山上には少し荷が重すぎる、又軽の車では無理だろうと配慮され、21日の持経宿への弁当運び、行仙宿では会の行事として交流会をしようとして取り決めてくれた。22日の交流会は川島代表、生熊さん夫妻、前田君、山上、遅れて梶野君が参加となる。

5月21日(日) 晴

21日昼頃、川島代表が車で我が家に回ってくれる、「おむすび一郎」で夕食弁当と朝食弁当を10人分買い、持経宿に向かう。心配していた池郷林道は細かい落石があったものの思いの外早

く14時半前に小屋に到着。

一行は、予定より早く既に到着しておられ、水場から順次戻って来られた。リーダーの征矢さんに初対面の挨拶をして夕食弁当、明日の朝食弁当+味噌汁及び「冷えた缶ビール」、甘夏柑を渡し、「明日は鮪を持ってきます」と豪語して、会話もそこそこに15時半前に引き上げる。

新宮に帰ってはじめて今日は日曜日で魚屋が休みであることに気が付き、急ぎスーパーの魚売り場にいったが「トンボ鮪」の短冊が二本残っているだけだった、それを買いたい家内に話すと明日の朝市場で「せせり身」を買ったらと助言された。

5月22日(月) 快晴

折角の交流会だから無人の山小屋では味わえない食事を提供しようとして、昨夜準備した天婦羅等の食材、特に今日のためにと冷蔵していた京都の関本さんから送って頂いていた「コシアブラ」と今朝市場で買った「鮪のせせり身」を準備して代表の車を待つ。8時に前田君も共々我が家に迎えに来てくれた。

「おむすび一郎」で昨日と異なる「熊野牛」弁当16人分を買い、ローソンで待ち合わせの生熊さん夫妻と合流して、宮井大橋から北山村経由で行仙宿登山口に向かう。425号の通行規制の工事現場で若干時間待ちをしたが10時に登山口に到着する。

生熊さんが手っ取り早くモノレールを下してくれる、今夜の食材や5人の荷物を積んで、私一人がモノレールに乗り他の三人に歩いてもらう。

11時15分小屋に着くとお堂の前に救助隊の服を着た4、5人がいて物々しい雰囲気漂っている、登山口で遭難事故の話を持ち上げ聞いたが、小屋前が現地本部になっているのにはいささか驚かされた。

19日に小屋に泊まった62歳の男性が「3時に出発し上葛川からバスで帰る」というメールを家に送って、後通信が途絶え遭

難しただけでないかと家族から20日に警察に通報があり、21日から地元の警察や消防署の救助隊が笠捨山く上葛川周辺を捜索しているとの事だった。

登山は冒険であるが危険と表裏一体であることを改めて実感し常に緊張感を持たねばと再認識をする。現地での捜索隊長らしき警察官が、携帯電話の電源は常に「入」にして置くと言っている。電波を拾って、その所在が判り捜索の助けになると云う、良い助言を頂いた。

食材仕分けの間に、前田君は行仙宿水場に降り、流れが無く溜り水状態で、多くは水汲み出来ないと言われ、報告してくれ。

昼食を終えた頃、昼食を行仙岳の頂上で済ませたと言っている一行10人が12時15分揃って到着した。

川島代表が歓迎の挨拶をし、メンバーを紹介する。

不慣れた山小屋での命の水の価値は、山の経験深いJACの皆さんには十分に理解されると思うけれども、一般登山者の中には勝手に汲み置きの水をペットボトルに入れてある人がいる。その時には注意をして水場を知ることが山の中では大事だと水汲みを促している。

これからの共同作業は、水汲みの作業から始まる。水汲みが発する前に行者堂に集り生熊敏男導師に従い勤行をする。



重い荷を担ぐ



勤行後の記念撮影



引揚げ捜索隊すれ違う

「遭難者の発見と皆さんの満行を祈念して」と懺悔文、開経偈、般若心經を唱えて下さった。

水汲みは、本来の行仙宿の水場の水量を考慮して二手に分かれ、行仙宿水場と登山口の湧水水場からモノレールで運び、終点から小屋へ運ぶ班にした。

行仙宿水場(女性陣と男2名)と登山口水場へは川島・前田君が先導し、背負子にポリタンク一個の方、二個の方と各自体力に合わせて担ぎ、計45ℓの水汲みをした。運搬途中、遭難者が見つからず引揚げの捜索隊とすれ違う。

暫らく休憩後、固い岩盤の敷地造成、間伐材を前田君が一人で皮をはぎ、その丸太材を活かし建てた管理棟等を案内説明する。

懇親会の主催側は6人で、調理の出来るのは生熊千満子さん1人で大変な負担をかける事になった。早速かまどで湯を沸かし使う食器の熱湯消毒をされ、その皿に魚を盛り付ける等細かい配慮をしてくれる。

水汲みに降りた大畑・橋本さんが戻ってこられたので野菜(南瓜・薩摩芋・コシアブラ・アシタバ・玉葱)の天婦羅を揚げて頂く。後で思えば折角、大峰の自然の中に溶け込もうと来られたお二人に主婦の仕事の延長をさせしまい、実に汗顔の至りであった。



水汲み後小休止



懇親交流会が始まる



皆さんの協力を得て食卓には。スナック豌豆、空豆、マグロのせせり、天麩羅と豪華な料理が並び16時前から川島代表の挨拶、征矢さんの乾杯の音頭で懇親交流会が始まる

「今宵こうして呑めるのは〇〇さんのお陰です・・・」の歌で自己紹介をして盛上がる。

18時過ぎに梶野氏が到着し、暫らくして全員の記念撮影。



懇親交流会で話はずむ

参加者の記念撮影

平成21年5月17日にも日本山岳会から一徹さん等14名の方が来宿されて、ほぼ同じメンバーの我々と交流会を持つことが如何に大事であるか認識をしているが、その様な機会は滅多にない、八年を経て再び日本山岳会の重鎮を迎えて交流会を持てた意義は大きい。今後も世界文化遺産に登録された「行と登山」が混淆された大峰奥駈道をJACの多くの仲間に触れてほしいと期待している。

明日23日は5時半朝食、6時出発と縦走の疲れもあり、懇親交流会を19時で打ち上げとし、20時に消灯する。

5月23日(火) 快晴

管理棟で就寝した生熊夫妻、上山は、朝4時に起床し、豌豆豆ご飯、味噌汁、焼き魚等の朝食を用意する。



朝食の様子



出発前に名簿順に並んで撮影



小林さんは一足早く5時半頃に、本隊は5時40分に玉置神社へと出立される。「満行されますように」と見送る。

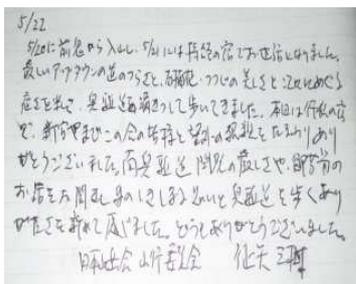
上山は、前回(H21年)と同じ22番鉄塔前の場所で、撮影し見送った。

果たして楽しい一夜を過ごして頂けたのか不安が残ったが、征矢さんが左の様なメッセージを残してくれた。行仙宿のノートに書かれています、ご一読を。

H21年5月18日

H29年5月23日

征矢さんのメッセージ



我々は6時より朝食と後片付けをして、慌しく9時前に下山する。今日は、捜索隊が誰も登って来ない。通行規制の工事現場を9時40分過ぎに通行し、下北山村役場へ遭難者の捜索情報を得るため立寄ったが、発見できず今日は四ノ川林道から捜索に入っているとのこと。下北山村は笠捨山山頂迄、山頂から上葛川へは十津川村の担当になり捜索をしている。捜索状況を聞き終え、11時半頃に帰新した。



我々の朝食

平成21年と今回(平成29年)のJACC来宿参加者

平成21年5月17日 今回(平成29年5月22日)



追記

後日、征矢三樹様から維持管理費1万円の寄付金を受領しました、有効に活用させて頂きます、本当にありがとうございます。

(記 山上)